

世界史

〔 I 〕 次の文章を読み、設問 1～6 に答えなさい。(50点)

5世紀にフン族から独立した東ゴート人は、(a) に率いられて、西ローマ帝国を滅亡させた(b) を倒し、東ゴート王国を建国した。この王国は、ローマの文化を重視して、ゲルマン諸国家最大の繁栄を誇ったが、555年にビザンツ帝国によって滅ぼされた。^(A)

一方、ランゴバルド人は568年北イタリアにバヴィアを首都とするランゴバルド王国を建てた。キリスト教アリウス派であったランゴバルド王国は、⁽ⁱ⁾

あ

を獲得したが、この地域は756年に(c) 朝によって奪われ、ローマ教皇に寄進された。これが教皇領の起源となる。ランゴバルド王国は、774年に(d) によって征服され、フランク王国に併合された。その後この地域は(e) と呼ばれるようになる。

フランク王国では、内紛がおこり、843年のヴェルダン条約と870年のメルセン条約によって、帝国は東フランク・西フランクとイタリアの3つに分裂した。東フランクでは、(f) が北イタリアを制圧し、962年にローマ教皇からローマ皇帝の位を与えられた。これが神聖ローマ帝国の起源となった。西フランクでは、王権は狭い地域を支配するのみできわめて弱く、王に匹敵する大諸侯が国内に数多く分立していた。東フランク・西フランクに続き、イタリアでも9世紀に(c) 家の血筋が断絶すると、王位をめぐる争いが続いて混乱した。

北部イタリアでは、神聖ローマ皇帝がイタリア政策によって介入すると、諸都市の内部ではローマ教皇を支持する(g) と神聖ローマ皇帝を支持する(h) がたがいに争い、国内統一をさらに困難なものとした。

南部イタリアはビザンツ帝国の支配下にあったが、9世紀にイスラーム王朝も⁽ⁱⁱ⁾勢力をのぼし、10世紀にはシチリア全島がその支配下に入った。12世紀には、ノルマン人が南イタリアとシチリア島に侵入し、両シチリア王国を建国した。その後、ドイツのシュタウフェン家やフランスのアンジュー家に支配されたが、^(u)シチ

リア島はアラゴン家のもとで分離した。15世紀にはナポリ王国はアラゴン家に征服され、イタリア戦争に巻き込まれていく。

中部イタリアには、ローマ教皇領があったため、教皇の支配が及んだ。教会が皇帝や国王などの世俗権力の影響を受けると、聖職売買など様々な弊害が生じた。これに対して10世紀以降、フランスの中東部の（ i ）を中心に改革運動がおこった。教皇（ j ）はこの改革を推し進め、聖職売買や聖職者の妻帯を禁じ、また、聖職者を任命する権利を世俗権力から教会の手に移して教皇権を強化しようとした。ドイツの はこれに反発し、叙任権闘争が始まった。 は改革を無視しようとしたため、教皇は彼を破門した。また、ドイツ諸侯は破門解除がなければ王位を廃位すると決議したため、1077年 はイタリアのカノッサで教皇に謝罪した。その後も教皇と皇帝の対立は続き、1122年のヴォルムス協約で政教分離の妥協が成立し、皇帝は聖職者の任命権を失い、教会は世俗権力から独立して、叙任権闘争は終結した。

1096年の第1回十字軍には諸侯や騎士などがイタリアからも参加した。第4回十字軍は、ヴェネツィア商人の要求に迫られて聖地回復の目的を捨て、その商業上のライバルであるビザンツ帝国のコンスタンティノープルを占領して を建てた。十字軍の輸送によりイタリアの諸都市は大いに繁栄した。また、イタリア諸都市は、大商人や貴族に指導され、領主である司教権力を倒して自治権を獲得した となり、周辺の農村も併合して一種の都市国家として完全に独立した。なかでも、北イタリアの有力都市は、共通の利害のために（ e ）同盟を結成して神聖ローマ皇帝に対抗した。こうして中世西ヨーロッパ世界は大きく変容した。

設問1 文中の (a) ~ (j) に入る最も適切な語句を次の語群から選び、番号を解答欄 I - A に記入しなさい。

【語群】

- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 1. アッティラ王 | 2. アルフレッド王 | |
| 3. インノケンティウス3世 | | 4. ウィリアム1世 |
| 5. ウルバヌス2世 | 6. オットー1世 | 7. オドアケル |
| 8. カール大帝 | 9. カルマル | 10. カール=マルテル |
| 11. カール4世 | 12. カロリング | 13. ギベリン |
| 14. クヌート | 15. クリュニー修道院 | 16. グレゴリウス7世 |
| 17. クローヴィス | 18. ゲルフ | 19. ザクセン |
| 20. サンキュロット | 21. シトー修道会 | 22. ジャコバン |
| 23. ジロンド | 24. テオドリック王 | 25. ドミニコ修道会 |
| 26. トーリー | 27. ハンザ | 28. ピピン |
| 29. フィヤン | 30. フランチェスコ修道会 | |
| 31. フリードリヒ1世 | 32. ブルボン | 33. ホイッグ |
| 34. ボニファティウス8世 | | 35. メロヴィング |
| 36. ユーグ=カペー | 37. ライン | 38. リューリク |
| 39. ロロ | 40. ロンバルディア | |

設問2 文中の空欄

あ

 ~

え

 に入る語句を、解答欄 I - B に記入しなさい。ただし

え

 はカタカナ4文字で答えなさい。

設問3 文中の下線部(A)に関連して、当時のビザンツ皇帝の記述として誤っているものを、次の1～4から一つ選び、番号を解答欄I～Cに記入しなさい。

1. のちにヨーロッパ社会の法体系の規範となる『ローマ法大全』を、トリボニアヌスらに編纂させた。
2. ドームとモザイク画を特徴とするハギア＝ソフィア大聖堂をコンスタンティノーブルに建てた。
3. イスラームからの批判を避けるため、聖（画）像禁止令を発布した。
4. 中国から養蚕技術を導入した。

設問4 文中の下線部(i)(ii)に関連して、次の記述1～4から正しい記述を一つ選び、番号を解答欄I～Cに記入しなさい。

(i) キリスト教アリウス派について。

1. キリストと神の異質性を強調し、コンスタンティヌス帝の時代に異端とされた。
2. キリストを神と同一視し、ニケーアの公会議で異端とされた。
3. キリストの神性と人性とを分離して考え、エフェソスの公会議で異端とされた。
4. キリストの神性と人性の合一を信じ、カルケドン公会議で異端とされた。

(ii) 9世紀のイスラーム王朝について。

1. ウマイヤ朝のもとで、ウマイヤ＝モスクがダマスクスに建てられた。
2. アッバース朝の成立後、イベリア半島で後ウマイヤ朝がおこった。
3. ファーティマ朝では、君主がみずからカリフを名乗った。
4. 中央アジアでサーマーン朝、エジプトでトゥールーン朝が成立した。

設問5 二重下線部(ア)(イ)に関連する次の記述(a)(b)について、(a)(b)ともに正しい場合は数字1、(a)のみ正しい場合は数字2、(b)のみ正しい場合は数字3、(a)(b)ともに正しくない場合は数字4を、解答欄I-Cに記入しなさい。

(ア) イタリア戦争について。

(a) イタリア戦争中にマキアヴェリは『君主論』を著し、政治を宗教や道徳とより強固に結びつける必要性を主張した。

(b) イタリア戦争は、神聖ローマ帝国とフランスのヴァロワ朝との間で戦われた。

(イ) イタリアの諸都市について。

(a) ヴェネツィアやジェノヴァといった港市（海港都市）には、東方貿易によって、絹織物などがもたらされた。

(b) フィレンツェやピサといった内陸の都市は、毛織物業や金融業で栄えた。

設問6 波線部(a)に関連する次の文X～Zを読み、内容が正しい記号の組合せを以下の1～8から一つ選び、番号を解答欄I-Cに記入しなさい。

X イングランドでは、ノルマン朝の後に、アンジュー家のヘンリ3世がプランタジネット朝を開いた。

Y アラゴンとカスティリヤが合併して誕生したスペインが、コルドバを陥落させた。

Z 大空位時代を経て、シュタウフェン家が神聖ローマ皇帝の位を世襲するようになった。

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1. X | 2. Y | 3. Z | 4. X・Y |
| 5. X・Z | 6. Y・Z | 7. X・Y・Z | 8. なし |

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、設問1～3に答えなさい。

(50点)

アメリカ合衆国の独立は人民主義を掲げ、イギリスの重商主義やそれと結びついた特権的植民者の支配を打破したことから「独立革命」といわれる。独立当初のアメリカ合衆国は、13州のゆるい連合体に過ぎなかった。しかし独立直後の財政的困難を背景に、強力な中央政府の樹立が求められるようになった。1787年にフィラデルフィアで開催された会議で合衆国憲法が制定され、自治権を持つ各州を中央の連邦政府が統括する連邦共和国として出発することになった。独立直後のアメリカ合衆国の領土は北米大陸の東部のみであったが、1803年にフランスから (a) を、1819年にスペインから (b) を購入し、さらに1845年にはメキシコからの独立を宣言していた (c) を併合し、アメリカ＝メキシコ戦争の結果、カリフォルニアを獲得するなど、西部へ領土を拡大していった。先住民は先祖伝来の土地を奪われ、不毛な土地に設けられた居留地に移動させられた。

アメリカ合衆国の西部への拡大は、北部と南部の対立を深刻化させた。1860年の大統領選で奴隷制の拡大反対を唱えるリンカンが当選すると、南部諸州は連邦から離脱してアメリカ連合国を結成し、南北の対立は決定的となった。1861年に始まった南北戦争は1865年に南軍が降伏するまで続き、アメリカ合衆国史上最多の死者を出す結果となった。その後国家の統一性を回復し、19世紀末に世界最大の工業国となったアメリカ合衆国は、海外への進出を目指す帝国主義的政策をとるようになっていく。マッキンリー大統領は、(d) の独立運動に乗じて1898年にアメリカ＝スペイン戦争を引き起こした。後を継いだセオドア＝ローズヴェルト大統領は、中米諸国に対し武力干渉も辞さない強気的外交政策を展開し、コロンビアからのパナマ独立を画策して、独立後のパナマから運河工事権と租借権を得た。

ラテンアメリカでは、アメリカ独立革命やフランス革命の影響を受けて、18世紀末から独立運動が起こった。フランス領 (e) は1791年の反乱を契機として、1804年にハイチとして独立を達成した。スペイン領であった地域では、(f) の侵略による本国の混乱に乗じて独立運動が本格化した。南米北部では、1819年に大 (g) 共和国独立が宣言された。同共和国はのちに

(g), (h), ベネズエラに分裂した。南部においてもアルゼンチンをはじめとする国々が独立を達成した。ブラジルは1822年にポルトガルから独立した。

南米諸国の独立運動は、植民地生まれの白人を中心に展開したが、中米のメキシコにおいては異なる様相をみせた。独立運動は先住民やメスティソ（メスティーン）による武装蜂起として始まった。反乱の拡大を恐れた現地支配層はこれを鎮圧し、1821年に独立を宣言し、1824年に共和国憲法を制定した。独立後も混乱が続き、アメリカ＝メキシコ戦争に敗れ国土の半分を失った後は自由主義者の蜂起により内戦がおこった。これに乗じたフランスはメキシコに軍を派遣し、(i) 皇帝の弟マクシミリアンをメキシコ皇帝にすえて帝政を樹立させたが、メキシコ人の抵抗にあい1867年に撤退した。メキシコではその後軍部出身の(j) 大統領による長期独裁政権がしかれ、豊富な鉱物資源を背景に経済成長がはかられたが、経済格差も広がった。1910年には国内各地で農民による蜂起がおこり、政治の民主化をめざす運動と結びついてメキシコ革命が始まり、1911年に(j) 政権は崩壊した。民主化運動は農民や労働者をまきこんで全国的に展開され、1917年の革命憲法制定に結実した。メキシコ革命がラテンアメリカ社会に及ぼした影響は大きく、各地で社会変革を求める運動が発展した。

設問1 文中の (a) ~ (j) に入る最も適切な語句を次の語群から選
び、番号を解答欄Ⅱ-Aに記入しなさい。

【語群】

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. アラスカ | 2. イギリス | 3. ヴァージニア |
| 4. ヴァルガス | 5. ヴィクトリア女王 | 6. ウルグアイ |
| 7. エクアドル | 8. エルサルバドル | 9. オーストリア |
| 10. オレゴン | 11. キューバ | 12. コルテス |
| 13. コロンビア | 14. サウスカロライナ | 15. サン＝シモン |
| 16. サン＝ドマング | 17. ジャマイカ | 18. シャルル10世 |
| 19. スペイン | 20. チリ | 21. ディアス |
| 22. テキサス | 23. ドイツ | 24. ドミニカ |
| 25. ナポレオン | 26. ニカラグア | 27. ニコライ1世 |
| 28. ノースカロライナ | 29. バティスタ | 30. プエルトリコ |
| 31. プロイセン | 32. フロリダ | 33. ペルー |
| 34. ポリビア | 35. マデロ | 36. メリーランド |
| 37. ユカタン | 38. ルイジアナ | 39. ロシア |
| 40. ローマ | | |

設問2 波線部(A)～(D)に関連する次の記述(a)(b)について、(a)(b)ともに正しい場合は数字1、(a)のみ正しい場合は数字2、(b)のみ正しい場合は数字3、(a)(b)ともに正しくない場合は数字4を、解答欄Ⅱ-Bに記入しなさい。

(A) 南北戦争

(a) 奴隷制プランテーションで綿花を栽培してイギリスに輸出していた南部諸州は保護貿易を支持したのに対し、工業化が進んでいた北部は自由貿易政策を求めた。

(b) 北軍は当初苦戦を強いられたが、西部開拓者に土地を無償で与えることを約束し、西部の支持をとりつけた。

(B) アメリカ＝スペイン戦争

(a) 戦争の前年には、国務長官ジョン＝ヘイが中国市場への進出を狙って門戸開放宣言を出した。

(b) この戦争の結果、フィリピン、グアム、ハワイはアメリカ領となった。

(C) アルゼンチン

(a) アルゼンチンは、イダルゴの指揮の下で1816年に独立した。

(b) 1946年にペロンが大統領に就任し、社会改革を行った。

(D) ブラジル

(a) アジアに向かっていたポルトガル人カブラルが1500年に漂着し、ブラジルはポルトガル領となった。

(b) ポルトガル領ブラジルでは、ヨーロッパの政乱から避難してきていたポルトガル王子が独立を宣言し、帝政をしいた。

設問3 下線部(ア)～(カ)に関連する以下の問いに対する答えを、解答欄Ⅱ－Cに記入しなさい。

(ア) 西部への領土拡大を正当化した言葉（スローガン）を何というか、答えなさい。

(イ) ストウが1852年に発表した奴隷制を批判する小説の名前を書きなさい。

(ウ) リンカンが大統領就任時に所属していた政党を漢字で答えなさい。

(エ) スペインによって征服された後、同地で先住民保護のために尽力し、『インディアスの破壊についての簡潔な報告』を記したスペイン人聖職者の名前を答えなさい。

(オ) 自由主義者として、土地改革などを主導した先住民出身のメキシコ大統領の名前を答えなさい。

(カ) メキシコで農民蜂起を指導し、1919年に暗殺された人物の名前を答えなさい。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、設問1～8に答えなさい。

(50点)

イギリス・フランス・ロシアをはじめとする連合国（協商国）と、ドイツ・オーストリア・オスマン帝国などからなる同盟国の間で戦われた第一次世界大戦は、ヨーロッパを主戦場としながらも、東アジアの政治・経済・文化にも大きな影響を及ぼした。

1914年に戦争が勃発すると、国内に列強の（ a ）を抱えていた中華民国^①は、領土内での戦闘を回避するため中立を宣言した。しかし、日本は日英同盟^②を根拠にドイツに宣戦し、中国国内のドイツ（ a ）である膠州湾（青島）や、青島と済南を結ぶ鉄道を占領した。さらに翌1915年には、（ b ）省におけるドイツ権益の継承を含む二十一か条の要求^③を中華民国政府につきつけた。

A

 政権は粘り強く交渉したものの、日本は軍事的圧力をかけて要求の大半を認めさせた。これに対し、中国国内では強い反発が起こり、政府の「外交失敗」が厳しく批判されるとともに、各地で排日運動が展開された。

A

 は自らの皇帝即位という手段で政権の安定を図ろうとしたが、かえって国内外の反発を招き、1916年に帝政を取り消したのち病死した。中国ではこれ以後、中央政府が弱体化して地方政府の自立化が進んでいく。

中華民国は1917年、連合国の要請に応じてドイツとオーストリアに対して宣戦布告した。戦闘には直接参加しなかったものの、フランスやロシアに多数の労働者を送り、後方支援に従事させた。そのため、1918年に第一次世界大戦が終結すると、中華民国も戦勝国として（ c ）講和会議に参加した。中国代表団は大戦中にアメリカ大統領のウィルソンが掲げた十四か条の平和原則への期待から、二十一か条の要求の取り消しや（ b ）のドイツ権益返還を求めたが、（ d ）条約の原案では、（ b ）のドイツ権益は日本へ譲渡されることとなっていた。^④これに抗議して、五・四運動が起きた。

五・四運動の発生に影響を与えた外的要因の一つとして、同年に朝鮮で起こった三・一独立運動が挙げられる。朝鮮を併合した日本は、朝鮮総督府を置き、言論・出版・集会・結社の自由を厳しく制限した。憲兵を利用した、そうした強権的な支配は、一般に

B

 と呼ばれる。^⑤ロシア革命や民族自決原則に触発さ

れた知識人たちがソウルで「独立宣言」を発表すると、「朝鮮独立万歳」を叫ぶ示威運動が朝鮮全土に波及した。この運動に対し、北京大学教授の [C] は雑誌『毎週評論』において、朝鮮の人々は「武力ではなく民意を用いて、世界革命史に新たな時代を切り開いた」と高く評価し、「私たちは朝鮮の人々に比べて、まさに恥じ入るばかりである」と自国民に訴えかけた。

[C] は新文化運動を代表する旗手の一人であり、運動の中で大きな影響力を持った雑誌（ e ）の創刊者でもあった。新文化運動は、儒教に象徴される旧来の文化を批判し、民主や自由といった西欧の思想を紹介することで、中国文化の刷新を目指した運動である。その重要な論点の一つが「文学の改良」であった。たとえば、アメリカ留学から帰った（ f ）は、口語に近い新しい文体の導入を提唱し、日本に留学経験をもつ（ g ）は、小説『狂人日記』などを通じて中国社会の現実を鋭く批判した。

ロシア革命の勃発以降、（ e ）はマルクス主義の紹介に誌面を大きく割くようになった。また、第一次世界大戦中にはヨーロッパからの工業製品の流入が減少したことにより、中国では上海をはじめとする都市部で綿紡績業などの軽工業が発展し、それに伴って都市労働者の数も増加した。こうした思想的・経済的背景のもと、[C] は1921年、コミンテルンの指導を受けて中国共産党を結成し、初代委員長に就任した。

一方、孫文は1919年、東京で結成していた中華革命党を中国国民党へと改組した。独自の軍事的・財政的基盤に乏しかった国民党は、ソ連との連携を模索し、北京政府に対抗する政権を1923年に（ h ）に組織した。1924年には中国国民党第一回全国代表大会を開催し、「連ソ・容共・[D]」の方針を決め、ロシア共産党にならった組織運営を導入するとともに、中国共産党員の個人資格による入党も認めた。このように、中国共産党と国民党はともに、第一次世界大戦中に成立したロシア共産党の強い影響を受けて組織が構築された。大衆的な基盤に立脚して革命運動を推進するという基本方針も、両党に共通していた。^⑦こうした共通性は、両党の一時的な協力関係の成立を可能にした一方で、相互の強い対抗意識を生む要因ともなった。

設問1 文中の (a) ~ (h) に入る最も適切な語句を次の語群から選
び、番号を解答欄Ⅲ-Aに記入しなさい。

【語群】

- | | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 1. 『重細重公論』 | 2. ウィーン | 3. ヴェルサイユ |
| 4. カイロ | 5. 割譲地 | 6. 居留地 |
| 7. 広州 | 8. 康有為 | 9. 胡適 |
| 10. 湖北 | 11. 山西 | 12. 山東 |
| 13. サンフランシスコ | 14. 上海 | 15. 徐光啓 |
| 16. 『新青年』 | 17. 『清議報』 | 18. 錢大昕 |
| 19. 宋教仁 | 20. 租界 | 21. 租借地 |
| 22. 『東方雜誌』 | 23. 南京 | 24. パリ |
| 25. 北京 | 26. 満洲 | 27. 李大釗 |
| 28. 梁啓超 | 29. 遼寧 | 30. ロカルノ |
| 31. ローザンヌ | 32. 魯迅 | 33. ワシントン |

設問2 文中の から に入る最も適切な語句を、解答欄Ⅲ-Cに漢字で記入しなさい。 と はフルネーム（姓名）を書くこと。

設問3 下線部①②に関連する次の記述X～Zについて、内容が正しい文の記号の組合せを、下の1～7から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ-Bに記入しなさい。

① 中華民国の成立について。

X. 義和団戦争の敗北を受け、清朝は西洋の機械文明の技術を導入したが、政治改革は実施しなかった。

Y. 辛亥革命勃発以前、清朝を存続させて立憲君主制をめざす知識人たちは、孫文ら革命派と論争を繰り返していた。

Z. 辛亥革命を契機に外モンゴルは独立を宣言し、中華民国もこれを認めた。

② 日英同盟が締結された歴史的背景について。

X. 日本とロシアは朝鮮半島の支配権をめぐって争った。

Y. ロシアは日清戦争に際して中国東北地方を占領し、イギリスおよび日本との対立を深めた。

Z. イギリスはインド大反乱の鎮圧によって負担が増し、単独でロシアに対抗することが困難になったため、日本との同盟を締結した。

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1. X | 2. Y | 3. Z | 4. X・Y |
| 5. X・Z | 6. Y・Z | 7. X・Y・Z | |

設問4 下線部③に関連して、二十一か条の要求の当初の内容に含まれていないものを、次の1～4から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ-Bに記入しなさい。

1. 旅順・大連の租借期限を延長すること。
2. 中国の開港場における日本人の工場設置を認めること。
3. 中国政府の顧問に日本人を任命すること。
4. 南満洲鉄道の返還期限を延長すること。

設問5 下線部④に関連して、五・四運動に関する記述として正しいものを、次の1～4から一つ選び、番号を解答欄Ⅲ－Bに記入しなさい。

1. 五・四運動は青島から始まった。
2. 北京政府の弾圧により、抗議運動は学生によるデモや授業のボイコットに限定され、労働者によるストライキには発展しなかった。
3. 抗議運動の影響を受けて、中国代表団は講和条約への調印を拒否し、新たに発足した国際連盟への加盟も見送った。
4. 運動の発端となった旧ドイツ権益は、ワシントン会議において中国への返還が決定された。

設問6 下線部⑤に関連して、次の(1)(2)のそれぞれに(a)(b)の2つの文を挙げる。(a)(b)ともに正しい場合は数字1、(a)のみ正しい場合は数字2、(b)のみ正しい場合は数字3、(a)(b)ともに正しくない場合は数字4を、解答欄Ⅲ－Bに記入しなさい。

- (1) 二月革命と十月革命の勃発について。
 - (a) 1917年、首都モスクワでデモとストライキが発生し、各地で兵士や労働者のソヴィエトが結成された。
 - (b) 1917年、レーニン率いるボリシェヴィキが武装蜂起を起こし、社会主義政権を樹立した。
- (2) 革命後の動向について。
 - (a) 1918年、ボリシェヴィキはネップと呼ばれる戦時共産主義を断行した。
 - (b) コミンテルンは、ドイツ共産党を支援し、ドイツにおける社会主義政権の樹立を実現させた。

設問7 下線部⑥に関連して、以下の(a)～(d)のうち、この運動の勃発以降に発生した歴史的事件はいくつあるか。その数を数字1～4で解答欄Ⅲ-Bに記入しなさい。

- (a) 日本によるシベリア出兵の開始
- (b) 李承晩を首班とする大韓民国臨時政府の成立
- (c) トルコ共和国の成立
- (d) 「塩の行進」

設問8 下線部⑦に関連して、中国共産党と中国国民党の関係に関する記述として誤っているものを一つ選び、番号を解答欄Ⅲ-Bに記入しなさい。

1. 学生デモを契機に始まった五・三〇運動は、国共両党の指導のもとで展開された。
2. 蒋介石は北伐中に上海クーデターを起こして共産党を弾圧し、南京に国民政府を樹立して主席となった。
3. 共産党は1935年に八・一宣言を発し、国民党に対し抗日民族統一戦線の結成を呼びかけた。
4. 第二次世界大戦の終戦後、国共両党の関係が国家の主導権をめぐる悪化し、全面的な内戦へと発展していった。